

全酪連会報 12

2022 DEC No.687

若手後継者の本音／外之内 加奈さん

酪農業に対する理解醸成活動報告①

令和4年度 全酪連会員職員研修会 (前編)

日本酪農見て歩紀／株式会社十勝清水すくすくライフ
(北海道上川郡清水町)

酪農トピックス／東京のど真ん中にミニ牧場が出現!?酪農体験イベント
「わくわくモーモー牧場～豊洲に牛がやってくる～」開催 (酪農部) ほか

栄えある 秋の叙勲・褒章



I  MILK ACTION
2022 WINTER

2022.11/16 - 2023.1/31

→ <http://milk-action.org/>



全国酪農業協同組合連合会

Z
E
N
R
A
A
K
U
R
E
N

株式会社美野里牧場

茨城県小美玉市にある美野里牧場は加奈さんの曾おじいさんが牧場を始められています。開牧から100年を経過するに至っています。開會おじいさんは現在の美野里酪農業協同組合の創設に尽力された方です。

美野里牧場の自作地面積は17haです。飼料用とつもろこしの作付けを主としています。美野里酪農業協同組合は自給飼料のコントラクターを運営しており、美野里牧場においてもこのコントラクターを利用することにより17haの飼料用トウモロコシの収穫、サイレーシ調製が大きな負担とならず行えています。現在の飼養頭数は150頭、牛舎は、築30年となるフリーストール牛舎、6頭ダブルのパーラーです。

牧場業務に従事しているのは、加奈さん、ご主人、ご両親、パート2人の計5人です。



▲ 外之内加奈さん
「息子さんを抱いて」

就農までの経過

加奈さんは、普通科高校を卒業後東京の大学の文学部に進学し、オーストラリアでスキューバーダイビングのインストラクターを行っていました。

5年を経過した後に帰国し、平成26年に就農することとなりました。

牧場を継ぐ予定だった弟が継がなくなったこと、自然の中で働きたいとの思いが強いこと、牛がいてほしいと思ったこと、今改めて就農当時、自分に何ができるかを考えたことを思い出すとのことでした。

就農してからの取り組み

平成26年の就農後、まず、人工授精師の免許を取得し、牧場に係わることはできる限りのことを行い、平成28年には牧場を法人化して代表になられました。この法人化の年に、中学校の同級生だった看護師のご主人と結婚しました。改めて、両親から事業を承継することの難しさを振り返っていました。

まず、経験則で行われている牧場内の仕事に疑問を持ち、「なぜ？」と聞く理由のないことも多く、牧場内でうまくいかないことが起こった時は互いに人のせいにするようなことがあったとのことでした。

今回は、茨城県小美玉市 株式会社美野里牧場の後継者 外之内 加奈さんにお話を伺いました。



まだまだ発展途上にある美野里牧場ですが、このようなことの解決策は数字、データに基づいた提案だったと振り返られています。加奈さんもご主人も酪農に関しての知識が全くなく、分からないことは共済の獣医師の先生をはじめとした方々によく質問し理解するよう努めたとのことです。経験則ではなく数値やデータに基づく管理の最たるものとしては、「代謝プロフィールテストに基づいた飼料給与メニューの見直し」による乳量の向上や繁殖成績の改善が挙げられるとのことでした。

令和4年11月16日に宮城県で開催された第73回日本酪農研究会の経営発表において、加奈さんは「4代目が描く100年目の牧場——世代を超えた地域の絆——」と題して発表を行いました。

若手後継者の

本音

Vol.60



▲ フリーストール牛舎全景



▲ 株式会社美野里牧場看板



▲ 牛舎から見た耕作地

〔経営概況〕

所 属 美野里酪農業協同組合(代表理事組合長 朝倉実行)

家族構成 ご本人、ご主人、ご子息3人、ご両親、祖母

飼養頭数 150頭

自作地 17ha(とうもろこし作付け主体)

四代目が描く100年牧場 一世代を超えた地域の絆

最優秀賞である黒澤賞を受賞しています。経験則による経営から数値、データに基づいた経営改善が評価されたものです。また、法人化することで「会社のお金」と言う意識がより強く芽生えるようになったとのことです。

今後の目標——将来

現状からの増頭は考えてなく、現在の経営の中で質の向上を図っていきたいとのことでした。直近の目標として、ミルクプラントを設立して6次化へ取り組むことを計画しており、低温殺菌乳を製造して牧場で販売したいとのこと。 「牧場に来て牛乳を飲んでほしい。」「このことが地域のまちづくりにつながればと考えています。」



全国の若手後継者の皆さんへ一言!

経営の継承について、最近では第3者継承も増えてきたものの、親子間での継承が難しいと思われ、解決策の一つに数値やデータによる提案を行うことで両親に納得してもらうことです。株式会社美野里牧場も発展途上ですが、皆様も参考としていただければ幸いです。



▲ 牧場に掲げられた消費者へのメッセージ

酪農家になって消費者との距離があると感じたことから、その距離を縮める努力をしたという思いになったとのことでした。一方で、築30年になる牛舎を考えた時、今後どのようにしていくかが当面の家族の検討課題とおっしゃっていました。

酪農業に対する理解醸成活動報告 1

酪農業に対する理解醸成活動は、日本の酪農を取り巻く状況や、酪農が果たす役割を酪農家自らが発信することによって、一般消費者の方々に酪農への理解を深めていただくとともに、牛乳・乳製品の消費拡大を目的としています。

10月22日(土)新宿駅西口広場イベントスペースにて行った活動に前後して、全国各地からも報告が届いておりますのでその活動をご紹介します。ご協力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



YouTubeで動画を掲載しております。是非ご覧ください。



札幌支所

●催事名：ちとせ消費者まつり2022

場 所：北ガス文化ホール
(北海道千歳市)

開催日：令和4年10月15日(土)

参加者：北海道酪農青年女性会議 2名

※トピックスにて掲載しています。

●催事名：いわみざわ農協青年部イベント

場 所：旧Aコープ鉄北店前(北海道岩見沢市)、ホクレンくるるの杜(北海道北広島市)

開催日：令和4年10月15日(土)

参加者：北海道酪農青年女性会議・岩見沢農協青年部 8名

当日は農産物直売会や子ども食堂・縁日も開催され多くの方の来場がありました。牛乳配布により会話が生まれ、消費者に酪農情勢について知っていただく良い機会となりました。



●場 所：泉中央駅前広場
(宮城県仙台市)

開催日：令和4年10月15日(土)

参加者：東北酪農青年女性会議 10名

老若男女問わず幅広い年代の方が足を止め配布したチラシを読んでもくださり、消費拡大への理解につながると実感しました。



仙台支所

●催事名：牛乳を飲んで酪農家を応援しようキャンペーン

場 所：ミルクランド東毛ニコモール店(群馬県太田市新田分野井町)

開催日：令和4年10月15日(土)・16日(日)

参加者：東毛酪農業協同組合

牛乳・乳製品やソフトクリームを販売している東毛酪農直営店舗には親子連れの方が多く来店され、給食牛乳になじみが深いことから、チラシを配布し多くの方に内容を理解していただくことができました。



●催事名：茨城県牛乳消費拡大事業ポスターコンクール表彰式

場 所：水戸駅ビル エクセル本館(茨城県水戸市)

開催日：令和4年11月1日(火)

参加者：茨城県酪農業協同組合連合会

茨城県牛乳普及協会主催の「牛乳消費拡大事業ポスターコンクール」の表彰式が開催され、カルシウムとビタミンDなどの栄養を摂取することが重要な時期の小中学生と保護者の方々にチラシと保冷バッグを配布し、最近の酪農情勢と牛乳の消費拡大への協力を伝えることができました。



東京支所

●催事名：第43回石川の農林漁業まつり
場 所：石川県産業展示館4号館（石川県金沢市）
開催日：令和4年10月15日(出)・16日(日)
参加者：石川県酪農農業協同組合 3名
※トピックス（10月号）にて掲載しています。

●催事名：愛知県畜産フェスタ
場 所：愛知県畜産総合センター（愛知県岡崎市）
開催日：令和4年10月22日(出)
参加者：愛知県酪農農業協同組合
酪農家・職員他 11名
※トピックスにて掲載しています。

●催事名：2022はんだふれあい産業まつり
場 所：半田市運動公園（愛知県半田市）
開催日：令和4年11月13日(日)
参加者：愛知県酪農農業協同組合
酪農家・職員他 18名
※トピックスにて掲載しています。

●催事名：「ひがしうら探検隊」in生路・藤江
場所（主催）：愛知県知多郡東浦町
開催日：令和4年10月30日(日)
地域を知ってもらうためのイベントでスタンプラリーを開催。
立ち寄りポイントの牧場では搾乳体験をしてもらい、そこでチ
ラシや保冷バッグを渡しPRを行いました。来場者以外にも地
元高校のスタッフや町職員の方々にも今の酪農情勢の話を聞いて
もらうことができました。



●催事名：#農家バンドフェス（オンライン）
主 催：牛好きnet愛知
開催日：令和4年10月29日・30日(日)
日本初！Twitter開催オンライン農家フェスが開催され、2日間を通じ
6,000回以上の視聴がありました。「売られている物として牛乳を見て
いただくと、生きてる牛がいて、それを育てている人があってのものです
ね。ありがたいです。牛乳飲みます。」や「牛乳、明日からもっとおい
くなるな。」など温かいコメントをたくさん頂きました。主催者やスタッ
フの方へもチラシやツールを配布して酪農への理解醸成を行いました。



●場 所：愛知県内中学校
開催日：令和4年
10月26日(水)
参加者：愛知県酪農
青年女性会議
2名
チラシとツールを渡し、
厳しい酪農情勢を理解
してもらいました。



●催事名：第43回阿久比町産業まつり
場 所：阿久比町役場駐車場（愛知県知多郡）
開催日：令和4年11月19日(出)・20日(日)
参加者：愛知県酪農農業協同組合
酪農家・職員他 18名
現在の酪農情勢の危機を伝えられる
内容のチラシと牛乳等の購買時に使
える保冷バッグは大変好評でした。
消費者の方が多く来場するイベント
は今後も継続していきたいです。



●催事名：ゆめ花マルシェ2022
場 所：山口きらら博記念公園
（山口県山口市）
開催日：令和4年10月8日(出)・9日(日)
参加者：山口県酪農青年女性会議 10名
イベント来場者へチラシやツールを配
布し、ブースでは県産牛乳の試飲や模
擬キットによる搾乳体験などを行いま
した。県内酪農と牛乳消費拡大へ関心
を持ってもらうとともに、厳しい酪農情勢
を知ってもらうきっかけになりました。



●催事名：おかやまミルクフェア2022
場 所：浦安総合公園（岡山県岡山市）
開催日：令和4年11月3日(日)
参加者：おかやま酪農農業協同組合女性部・青年部 10名
イベントでは来場者に向け、「安全・安心な国産
牛乳を毎日飲んで下さい。」と訴えながらのツ
ール配布や、牛乳を使ったレシピの配布や牛乳パッ
ク工作、搾乳・牧場作業などの紹介を行いま
した。消費者の方と触れ合いながらのイベントを3
年ぶりに開催することで、生産者の生の声を直
接伝えることができました。

●催事名：ハッピーミルクフェスタin熊本
場 所：イオンモール熊本
（熊本県上益城郡嘉島町）
開催日：令和4年11月6日(日)
参加者：九州酪農青年女性会議 他
※トピックスにて掲載しています。

●催事名：第48回ふるさとくろめ農業まつり
場 所：久留米百年公園（福岡県久留米市）
開催日：令和4年11月12日(出)・13日(日)
参加者：ふくおか酪農農業協同組合 他
※トピックスにて掲載しています。

●催事名：第3回さが駅前うまいもん市場
場 所：佐賀駅前交流広場（佐賀県佐賀市）
開催日：令和4年11月19日(日)
参加者：JA佐賀酪農課 他
※トピックスにて掲載しています。

全酪連会職員職員 研修会 前編

令和4年11月14日(月)に、令和4年度全酪連会職員研修会を開催いたしました。昨年に引き続きリモートでの開催となりましたが、41会員から約150の方々に参加いただきました。ありがとうございました。

今回の研修会は、『消費税インボイス制度の概要』と『欧州酪農事情』(欧州の酪農家は経営の厳しさに対し、どのように向き合っているのか?)の2つのテーマで開催し、本号では、昨年に引き続きこの研修内容ですが、今回はより酪農現場に即した内容で財務省主税局税制第一課消費税第二係係長 島田 力也様に講演いただきました『消費税インボイス制度の概要』を掲載いたします。



財務省主税局税制第一課消費税第二係係長
島田 力也氏

消費税インボイス制度概要

おなわいし

事業者の仕入税額控除

事業者は、売上げ時に預かった消

費税から、仕入れやサービスを受けたときなどに支払った消費税を差し引いた額を納税しています。この消費税を差し引くことを「仕入税額控除」といいますが、現行の制度では、

一定の記載事項が記載された帳簿及び請求書等(区分記載請求書等)の保存が必要です。令和5年10月からはこの保存すべき「請求書等」が一定の記載すべき事項を加えることで、「適格請求書(インボイス)」になります。買い手は仕入税額控除のために「適格請求書(インボイス)」の保存が必要です。

自社が売り手となる立場からすると、買い手である売上先の仕入税額控除のためにインボイスをどのように交付するかの検討が必要になります。

インボイスとは

インボイスとは、売り手が、買い手に対して正確な適用税率や消費税額等を伝える手段です。必要な記載事項が満たされている書類を「インボイス」と呼び、記載事項さえ満たしていれば様式は問われません。

適格請求書(インボイス)に必要な記載事項

- ① インボイス発行者の氏名又は名称及び登録番号
- ② 取引年月日
- ③ 取引の内容(又は内容及び軽減税率の対象品目である旨)

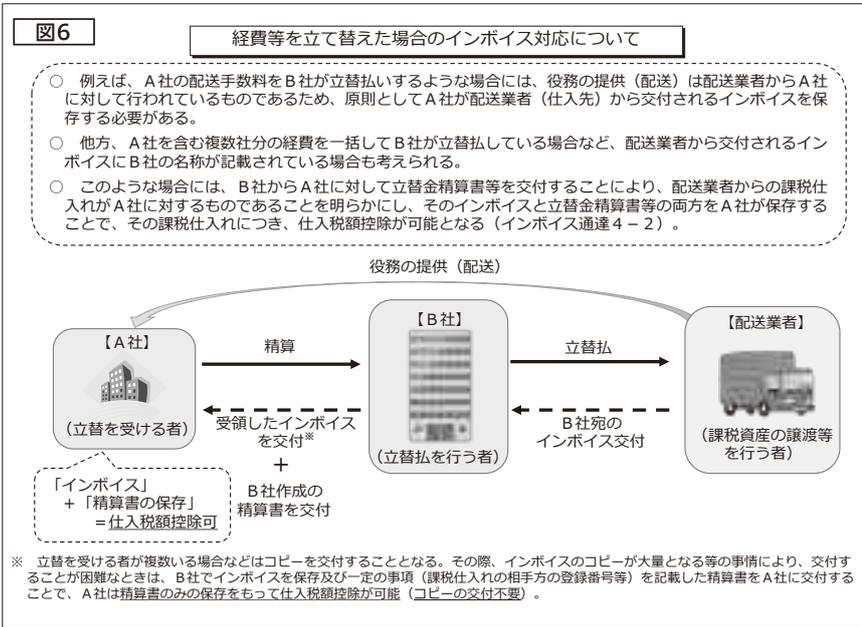
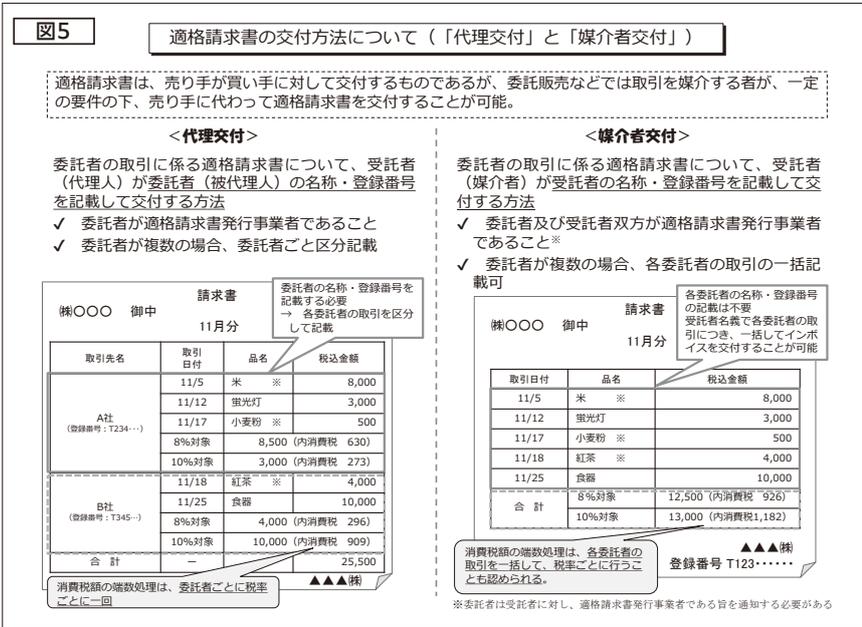
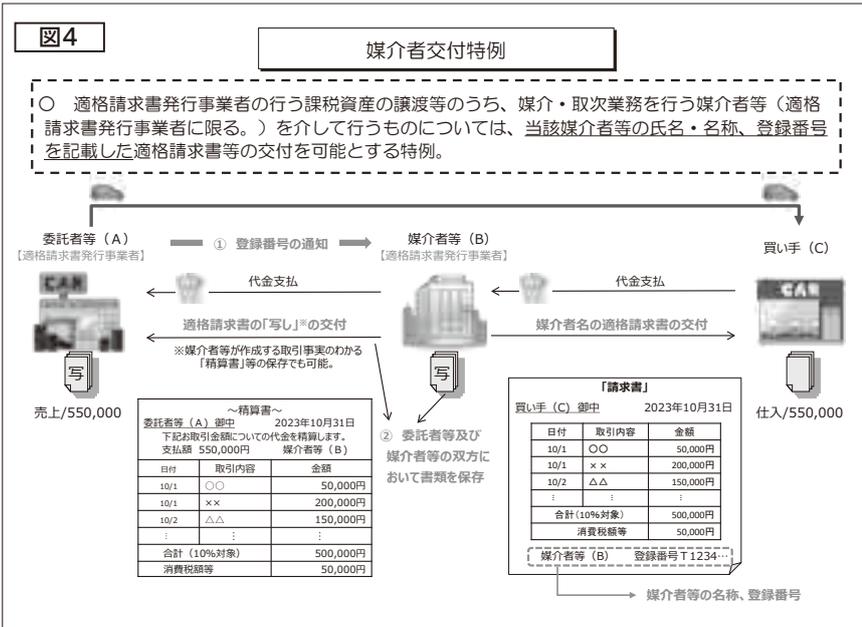
- ④ 適用税率ごとに区分して合計した対価の額及び適用税率
- ⑤ 消費税額
- ⑥ インボイス受領者の氏名又は名称

●ポイント

- ・ 現行の請求書等に記載事項を追加するイメージだが、受領者による追記は不可
- ・ 登録した事業者は、買い手の求めに応じてインボイス交付義務・写しの保存義務が発生する。
- ・ 免税事業者は発行不可(発行するには課税事業者となり税務署長の登録を受ける必要がある)

消費税額について

現行制度の区分記載請求書では、消費税額が記載事項になっていないため、消費税額を計算した際に生じる端数処理に係るルールは定められていません。しかし、インボイス制度では、インボイスに記載すべき「消費税額等」の計算方法が決められています。「税抜価額(又は税込価額)を税率ごとに区分して合計した金額」に対して10%又は8%を乗じて得た金額に対して端数処理を行って税額を



社に対してインボイスを交付し、B社はそのインボイスの写しと合わせて立替精算書等をA社に交付することで、A社は仕入税額控除が可能となります。（図6参照）

農協特例

農産物等を委託販売する際に、農協等を通じた特殊な流通形態に配慮

して設けられた協同組合特例があります。農協等では、組合員からの生産物を委託し販売を行う場合、買い手に対し、どの組合員の生産物を販売したのか特定・区分してインボイスを交付することは困難です。そのため、組合員と農協等の委託契約において、無条件委託方式及び共同計算方式で精算を行っている場合に限

り、生産者はインボイスの交付義務が免除され、購入者は農協の発行した書類を保存することで仕入税額控除を適用することができます。特例を適用するには、大きく分けて3つのポイントがあります。

① 生産者から販売の委託をうけていること（買い付けなどは対象外）

② 出荷については無条件委託方式であること

③ 精算については共同計算方式であること

このようなケースの場合は、売り手と買い手が結びつかない方式となり、インボイスの交付が難しいため特例が適用できるといふこととなります。（図7参照）

まとめ

インボイス制度開始に向けた準備では、売り手と買い手それぞれの観点で、必要となる対応を整理・検討することが重要です。今回の研修会の資料は全酪連のホームページよりダウンロードが可能です。

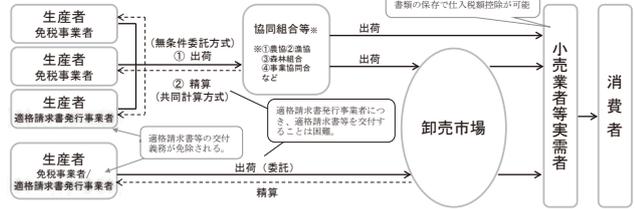
資料には、事前準備の基本項目のチェックシート等も付随しています。是非参考にしながら制度の理解を深め、必要な準備を進めてください。

図7

協同組合等を通じて取引される農産物等に対する特例

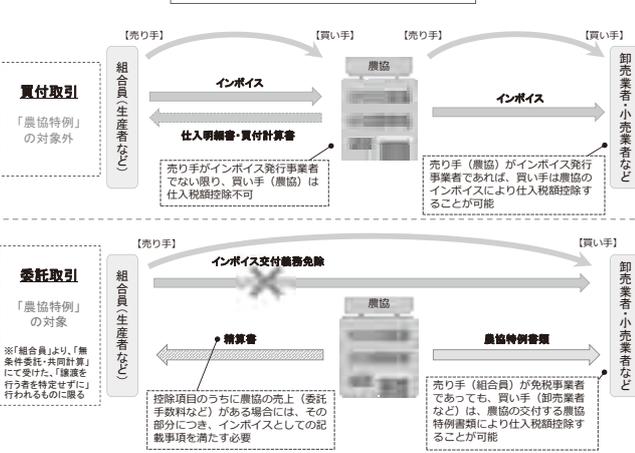
- 現在、卸売市場、協同組合等を通じた流通形態では、どの生産者の農産物かを把握せずに流通させる仕組みとなっているため、適格請求書発行者から出荷された農産物と免税事業者から出荷された農産物の区分は困難。
- このため、適格請求書発行者である生産者が卸売市場、協同組合等を通じて販売する農産物に係る適格請求書等を交付することは困難。
- 従って、卸売市場、協同組合等が販売の委託を受けて行う（協同組合等については、無条件委託方式・共同計算方式によるものに限る）農林水産物の譲渡等については、生産者の適格請求書等の交付義務を免除し、小売業者等実需者は、当該卸売市場、協同組合等の発行した書類（及び帳簿）の保存で仕入税額控除を可能とする。

※一般的な農産物の流通形態の例



- ①出荷（無条件委託方式）
生産者は、出荷した農産物について、売組、出荷時期、出荷先等の条件を付けて、その販売を協同組合等に委託
- ②精算（共同計算方式）
一定期間に協同組合等が出荷した同種、同規格、同品質ごとの農産物の平均価格によって精算する（全体の販売代金について、協同組合等が手数料を控除した上で生産者全体で分け合う）

農協の取引と書類のやりとり



乳代計算書のインボイス対応イメージ①

【指定団体→県酪農・単位農協等】

乳代計算書		計算金額 29,793,000円	指定団体 〇〇 農協番号:11234
区分	税率	算出	消費税率
基本乳代	8%	基本乳代 30,000,000	2,400,000
		格差金 1,000,000	80,000
		乳質評価金 1,500,000	120,000
		プレミアム金額 0	0
加算金額	非・不	計 31,500,000	2,600,000
控除項目部分	非・不	需要期生産奨励金 ▲需要期生産奨励金 1,000,000	1,000,000
		合計 30,500,000	2,600,000
		販売手数料 600,000	48,000
		集込乳経費 ▲集込乳経費 1,000,000	80,000
指定団体売上	10%	転送運賃 300,000	24,000
控除項目部分	非・不	計 1,900,000	190,000
		機器導入乳量割負担 150,000	15,000
		全国酪畜委託手数料 400,000	40,000
		中酪輸出金 270,000	27,000
控除金額	10%	計 3,150,000	252,000
立替分	10%(他)	検査費用 100,000	10,000
	非・不	中酪輸出金 30,000	3,000
		加工原料乳輸出金 300,000	30,000
		合計 3,150,000	252,000
差引金額		27,350,000	2,343,000

- 【出荷者売上部分】
→出荷者が区分経理できるよう、適用税率などを記載する ※区分記載請求書と同様
- 【控除項目部分】
→指定団体の「売上」か「立替」かで、必要な対応が異なるため区分する必要
- 売上部分
・インボイスとしての記載事項を満たす必要（登録番号など）
・消費税額の端数処理は、税率ごとに一度となる
- 立替部分
・出荷者が区分経理できるよう、適用税率などを記載する
・立替前から交付を受けたインボイスを保存する必要
・免税事業者分はわかるようにする

詳しくは、国税庁HPにおいて、インボイス制度に関するパンフレットやQ&Aのほか、国税庁動画チャンネル (YouTube) が公表されております。

【国税庁インボイス制度特設サイト】

→ <https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/invoice.htm>



【消費税の仕入税額控除制度における適格請求書等保存方式に関するQ&A】

→ https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/qa_01.htm



【適格請求書等保存方式の概要-インボイス制度の理解のために-】

→ <https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/zeimokubetsu/shohi/keigenzeiritsu/pdf/0020006-027.pdf>



また、インボイス制度に関する一般的なご質問やご相談は、以下で受け付けております。

軽減コールセンター

0120-205-553 (無料) 【受付時間】 9:00 ~ 17:00 (土日祝除く)



株式会社
十勝清水すくすくライフ
北海道上川郡清水町

稼働4年、酪農家が 安心して預けられる 育成牧場を目指す

▲ 前方左から十勝清水町農協若原畜産部長、名須川場長、白川代表取締役、中野職員、
後方左から、島津社員、中藤社員、名須川社員、清水副場長

この度ご紹介いたします株式会社十勝清水すくすくライフ（以下、㈱十勝清水すくすくライフ）は、十勝平野の西部に位置する上川郡清水町にあります。所属する十勝清水町農業協同組合（氷見隆雄代表理事組合長）は、酪農家戸数103戸、出荷乳量は、148,936t（いずれも令和3年度末時点）と十勝管内最大の生乳生産量を誇る酪農先進地域です。また、肥育事業においても様々な取り組みを行っており、管内の肥育農家4戸で生産されているホルスタイン種のブランド牛「十勝若牛」は独自の早期肥育技術により脂肪の少ないきめ細やかな肉質で、「新・ご当地グルメグランプリ北海道」で2013年から3年連続総合優勝するなど多くの消費者に愛されています。こちらは本会冬のギフトでも取り扱っておりますので、ぜひ

ご紹介ください。

設立まで
限られた労働力を生乳生産に

（㈱十勝清水すくすくライフ）は十勝清水町内の酪農家11戸、十勝清水町農協並びに本会の出資による哺育育成牧場で、平成30年10月に設立しました。現在は町内出資酪農家と全酪連預託事業による都府県酪農家からの預託牛を合わせて、およそ700頭を飼養しています。平成30年11月の稼働より全酪連預託事業による預託が先駆けて開始され、その後新牛舎の完成を待って令和3年4月から町内酪農家からの預託が始まりました。現在稼働から4年、町内預託牛は本年11月より初めての下牧が始まります。

設立当時全国的に初妊牛価格が高騰し続けていたことから、全酪





▲ 導入牛舎 町内から生後3日以降の牛を週2回集畜する換気システムと自動カーテンで適度かつ十分な換気を行う

連預託事業での受け入れ枠拡大のため十勝清水町農協管内での預託牧場開設を進めていました。また、家族経営が多くを占める清水町内においては、家族の高齢化また、畜産クラスター事業等による規模拡大農家の増加を受け預託を希望する声が増がっていました。限られた労働力を生乳生産に向けることは経営の大きな手助けとなることから、農協による事業説明とアンケートを実施した結果、11戸の

酪農家が預託牧場への出資（預託）を希望しました。さらに将来的には町内全域より牛を預かり酪農家の労働力の軽減を図ることを目的に、11戸の町内酪農家、十勝清水農協並びに全酪連による共同出資牧場「(株)十勝清水すくすくライフ」の設立となりました。

換気にこだわった新牛舎

施設的设计に当たっては、白川代表取締役をはじめ出資酪農家の

経験と、数ある道内預託牧場への視察から良いところを取り入れ、牛の快適性にこだわって設計しました。例えば、導入し離乳期までの牛舎ではフラップダクトという、ダクト式の全自動換気システムを設置しています。これにより、冬時期は感じない程度の優しい風量と気流で換気ができ、夏の暑い時期は子牛のいる空間に風が届くようになっていきます。窓を閉め切る夜間でもこれにより一定の換気が可能になります。

育成牛舎では屋根裏と軒下の換気口から常に自然換気が行われています。夏場はもちろん冬場も日中はカーテンを開けて換気を行うことで牛舎内は臭いも少なく、風邪の蔓延防止にもなっているとのこと。北海道内でも気温が高くなる夏場は、各牛舎に設置された換気扇で対策し換気と合わせて暑熱ストレスの軽減を図っています。また、降雪は少ないものの氷点下10度以下が続く冬場の凍結対策として、牛舎入口は横ではなく上下にスライドする扉を採用するなど、作業性にもこだわった作りとなっています。

◀ ミスト付扇風機 夏場の快適性が向上する



▲ 消毒設備

できることをすべてやる

飼養管理の特徴について名須川場長に伺ったところ、こちらの回答が返ってきました。稼働から4年、まだまだ作業の試行錯誤が続く中、場長の決意が伝わってきました。

令和2年に新牛舎7棟が完成し、導入から受胎までの牛が群分けされています。導入し哺乳牛舎は大きさを



で群分けし、日齢で離乳を行った後は月齢と体高を見ながらの群管理を行い、11カ月をめどにファームノートカラーを装着します。当牛舎からはスタンションが設置されているため体高が不十分であると事故が起きやすくなりますが、群分けは社員が責任を持って行っているようで、場



▲ 育成牛舎 ゆとりがあり、牛たちはのびのび過ごしている

長の社員に対する信頼が伺えました。現在はおよそ700頭を、場長を含む5名で管理しています。担当を決めず全員ですべての作業を行うことで平準化を図り、将来的に作業分担や交代勤務を行う状況になっても全社員が同水準の作業を行えるようにしています。社員は女性4名（1

名事務）男性2名、社員間の雰囲気は良く、取材の合間にも冗談や笑い声が聞かれました。

飼料給与については、午前中に道産グラスサイレージ・道産コーンサイレージを主体としたTMRを、夕方からはロールサイレージを切断しながら給与しています。飼料は腹作りを第一に調整し、さらに牛の状態・粗飼料の状態を見ながら季節ごとに微調整しています。粗飼料はほぼすべて道内から購入しているため、品質と金額を見極め安定的に確保できるよう白川代表自ら道内の情報にアンテナを立てておられます。

授精を行う農協の家畜人工授精師からは、上牧時はバラバラな体高が授精時にはそろってくる、と管理の良さを実感する声も上がっているそうです。また全酪連預託事業の一環である委託酪農家からのフィードバックにおいても、「㈱十勝清水すくすくライフの初妊牛は牛の形が良く、また長距離輸送にも耐えるパワフルな牛に仕上がっている。」と言う声も挙がってきており徐々に預託先として名前が浸透しているようです。今後は季節により飼料のバランスを変えるなどさらに安定したコン



授精牛舎 ▲▲



デイションの牛を育成できるように、社員一同努力していきたい、とのことでした。



▼ 下牧前の牛



▲ 11カ月齢よりファームノートカラーを装着
授精後40日、60日、下牧前1か月前に妊娠鑑定を行う

今はできることを少しずつ、
将来は町内の酪農家の
役に立てるように

㈱十勝清水すくすくライフの設立時は初妊牛の価格高騰が続いていたことから、全酪連預託事業並びに清水町内の預託希望も非常に多くありました。当初の予定では3,000頭規模の牧場を見据えていましたが、情勢の悪化により集畜

が予定より少ないことを受けて現在は1,200頭規模の牛舎を満床にすることを目標としています。酪農情勢については自分たちではどうしようもできないところ。無駄を減らして余計なコストをかけずに踏ん張るしかありません。町内でも離農や高齢化が進んでいることから今後生乳増産が可能になれば一軒の規模が大きくなり、手のかかる哺育育成を外部委託したいという要望は大きくなるのが予想されます。「現在は情勢も悪く、また開設間もないので、

できることを一生懸命やるだけです。下牧された牛たちが結果を出してくれば自然と牛は集まってくるでしょう。将来的には清水町全部の牛を預かり、酪農家の力になりたいです。」



▲ 哺乳ロボットが8基設置された哺育牛舎
牛床は2週間置きに交換され牛体はきれいに保たれる

白川代表取締役はこのように語ってくださいました。どのような牛を送り出したいか尋ねると、「良い牛を育てるのは当たり前。病気・事故などの損失を最小限にして酪農家が安心して預けられる育成牧場にしていきたいです。」ともお話しくださいました。

明るい話題が少ない中での取材となりましたが、数々の前向きで力強いお言葉を聞くことができました。そして、今後㈱十勝清水すくすくライフで育った力強い牛たちが清水町並びに全国で活躍することと確信致しました。大変忙しい中、快く取材をお引き受けくださり誠にありがとうございました。

● 預託事業概要

本会会員組合を通じて、都府県酪農家の育成牛を北海道の受入農家で育て、初妊牛としてまた元の酪農家へ戻します。当事業は受入農家が都府県酪農家から子牛を「買って」、仕上げた初妊牛を元の酪農家へ「売る」という「買い取り買い戻し方式」を採用しており、これにより様々なメリットがあります。詳細につきましては本会ホームページをご覧ください。最寄の支所畜産課までお問い合わせください。

酪農部
発

東京のと真ん中にミニ牧場が出現!? 酪農体験イベント「わくわくモーモー牧場 ～豊洲に牛がやってくる～」開催

東京のと真ん中にミニ牧場が出現!? 全国の酪農家が集まる酪農体験イベント「わくわくモーモー牧場～豊洲に牛がやってくる～@豊洲公園」が令和4年11月3日(木)に開催され、本会も11月から開始された「I♥MILK ACTION 2022 WINTER」の一環として参加いたしました!

本イベントは「酪農と牛乳のファンを増やそう!」を合言葉に、全国の地域交牧連の会員生産者が消費者と交流し、酪農家の熱意や思い、酪農の現状、牛乳の素晴らしさを伝え酪農や牛乳のファンを増やすことを目的に開催されました。主催した地域交流牧場全国連絡会(交牧連)は「酪農生産者同士が交流・意見交換する場をつくり、都市生活者や地域住民との交流活動や教育的活動を進めていくことで、日本酪農に対する理解や支援を獲得する」ことを目的に、全国各地の酪農生産者316会員(2019年7月)で構成されています。

今回、本会も「I♥MILK ACTION 2022 WINTER」の一環として、本物のPiZZAを全国ありとあらゆる場所へ届ける放浪のフードトラック「RUBBER TRAMP」とイベント当日限りでコラボし、全酪ゴダを含む国産100%にこだわったチーズを使用したオリジナルPiZZAを提供したほか、全国各地から取

り寄せたカフェオレやフルーツオレなどのミルクドリンクを販売するブースを設けました。

会場の豊洲公園には、晴天に恵まれたこともあり多くの来場者が訪れ、「クイズラリー」を通じた酪農家との交流や、模型を活用した「模擬搾乳体験」、また北海道・宮崎県の酪農家とオンラインでつながって牧場の様子を見学する「オンライン牧場体験」、「ミルクのケビン」上映会などの様々な催しに参加していました。豊洲の立地から親子連れも多く、特に「本物の乳牛展示」にはひときわ多くの来場者の注目が集められ、酪農家に「このウシの重さはどのくらいですか?」「仔牛は1日どれくらいミルクを飲むのか?」等質問している姿がみられました。

11月上旬とは思えぬ気温の中、当会が用意した800本以上の乳飲料はすべて完売、コラボしたPiZZAも閉会前に完売する大盛況でありました。

昨今の厳しい酪農情勢のなかですが、今回設けられたさまざまなコンテンツを通じ、酪農家と関係団体が自ら、消費者に酪農への熱意や思い、酪農の現状、牛乳の素晴らしさを伝え、共に連携して日本酪農と国産牛乳・乳製品の素晴らしさを大いに伝えることができたと思います。(A.M)

▼ 放浪のフードトラック「RUBBER TRAMP」



▲ 全酪連販売ブース



▲ ビジョンカーでのオンライン牧場体験

酪農部
発全国農協乳業協会
「令和4年度商品開発研修会」の開催結果

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和4年10月27日（木）～28日（金）に10事業者14名の参加をえて、「令和4年度商品開発研修会」を開催いたしました。令和元～3年度はコロナ禍WEB開催としましたが、今年度は実開催ができ約3年ぶりに実務者同志の顔を合わせての研修会となりました。

本研修会は、商品開発・営業職の方に、商品開発のエッセンスを学ぶ研修となっております。毎年開催しております。本年度は「ネーミング・デザインと発売のポイント」をテーマに、(株)Jスマイルズ太田講師を招聘し、商品のネーミングやデザインを決定するために重要なポイントを多数の実例を交えて講義いただきました。

グループワークでは、それぞれの事前課題で考えてきた「ネーミング・デザインの気になる」商品を共有し、班の中で「ネーミング・デザイン」が印象に残る商品の共通点について討議いたしました。「奇をてらいすぎた名前は、開発会議でも却下になる中で、どうしてこのようなネーミングになったのか」「ターゲットを明確にし、名前やデザインを考えていくのがなか

なか難しい」「お客さんにどうやったら差別化しにくい商品を手にとってもらえるのか」等、様々な意見を出し合いつつ参加者それぞれの実務に照らし合わせた話し合いがなされていきました。講師からは、独特なネーミングは「奇をてらうが3割、コンセプトがつたわる7割」が重要であることや、「誰に何を、どのようにメッセージとして届けるかがぶれると、ちぐはぐになってしまう」等、様々な要素を教えていただき、参加者もそのノウハウを習得しようと真剣に受講している姿が印象的でした。

研修会終了後には、「日々の商品開発業務の課題について、解決するためのアドバイスをえられた」「自社には素晴らしいブランドがあるのに、社内の理解がされていないので内部に向けても商品の魅力発信していきたい」等、今後業務に前向きにいかしていこうとする声が多数聞かれました。

久しぶりの実開催の研修会ということもあり、農プラ系乳業メーカー間の共感や様々情報共有の場を提供でき、終了時には参加者の一体感を感じました。

今後も研修会の開催を通じ、全国農協乳業協会会員職員のスキルアップや、課題解決、会員間での連携を深めていきたいと感じました。（A.Y）

◀ 太田講師
(株)Jスマイルズ 代表取締役社長



◀◀ 受講風景



本研修会は、(一社)Jミルクの「国産牛乳乳製品高付加価値化事業」の助成を受けて実施しています。

酪農部
発

全国農協乳業協会 「令和4年度販売担当者情報交換会」の開催

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会において、令和4年11月10日(木)に15事業者27名(内WEB参加11名)の参加をえて、新大阪ワシントンホテルプラザ及びオンラインにて開催いたしました。

当日は、会場参加者への手指の消毒の依頼・体温計測・体調や陽性者との接触に係る問診と合わせ、会場内座席は1テーブル1名として距離を取る等の感染対策を講じた形で実施いたしました。

本年度は「学校給食用牛乳のプラスチックレスの対応及び配送効率化について」「販売状況」について、事前のアンケートに基づいて情報交換を行いました。実参加者のみならず、WEB参加の方も闊達な意見交換がなされました。令和4年11月からの飲用乳価格引き上げ後の牛乳の商品価格改定に際し、商品販売状況や学校給食用牛乳の価格改定等、地域によって

様々な課題があるため、成功事例や県・地域行政との連携等情報交換がされました。また、価格改定から約1週間程度での開催のためか、まだ各社大きな変化がみられないという意見がある一方、一部量販店での牛乳・乳製品仕入れ量の著しい減少があったとの意見もあがりました。今後厳しい販売状況が見込まれる中での情報交換会開催であったため、企業間のつながりや、情報を今後の事業の参考にしていただけたようです。会場に参集した方々は、休憩時間も各地域の課題について情報交換をしており販売の実務責任者が横の連携を取る重要性を改めて認識できる、有意義な場となりました。

これからも全国農協乳業協会は会員事業者の負託にこたえるべく、様々な情報の発信や研修会の開催など活動を続けていきたいと考えております。(A.Y)



会場風景 ▲▶



▲ WEB参加者

本会議は、(一社)Jミルクの「国産牛乳乳製品高付加価値化事業」の助成を受けて実施しています。

札幌支所発

北海道酪農青年女性会議 消費者に人気の牛乳料理は?!

北海道酪農青年女性会議は10月15日(土)に千歳市で開催された「ちとせ消費者まつり2022」に出展し、理解醸成活動を行いました。来場者に①好きな乳製品または牛乳料理、②酪農家へのメッセージをカードに記入いただき、保冷バッグとチラシをお渡しするという初めての試みでしたが、当日は多くの消費者にご参加いただきました。

記入スペースでは「グラタン美味しいよね」「あのヨー

グルトが好き」と盛り上がる家族の会話が聞こえたり、配置したチラシにじっくり目を通す消費者もいました。出来上がった思い思いのカードを牛タペストリーの好きなところに貼っていただくと、総数およそ270通のカードで最後には牛の姿が見えなくなりました。

酪農家に向けたメッセージもたくさんいただきましたので、人気牛乳料理と併せてご紹介します。(T.H)

好きな牛乳料理

人気トップ3
シチュー・グラタン・ピザ

そのほか

フルーチェ・フレークにかけて食べる・フレンチトースト・牛乳プリン・カプレーゼ・オーツと牛乳のスープ・パン作りに使う・チーズフォンデュ・プリン・そのままが一番

酪農家へメッセージ

大変なお仕事ですががんばってください
牛乳大好きなので値段が高くても買い続けます
子どもが水の代わりに牛乳を飲んでます
牛乳を飲んで血圧が落ち着いてきました

生活に必要な酪農、大変な仕事と思いますが応援しています
エサ代の高騰で大変ですががんばってください
毎日給食で残さず飲んでます
牛さんがストレスを感じない環境で育ててください



札幌
支所発

北海道酪農青年女性会議 18歳に届け!夢ある酪農

北海道酪農青年女性会議は、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 機農コースの3年生と「酪農を学ぶ高校生と生産者による意見交換会」を開催しました。長期化したコロナ禍により酪農実習など生産者との直接対話の機会が減少していることを受け、営農や就農にあたっての疑問・不安の解消と酪農への希望を持ってそれぞれの進路に進んでもらうことを目的として、11月14日(月)午後の授業2コマ100分間を使って、生徒38名と酪農家11名が参加しました。

はじめに、夏の第50回全国大会で最優秀賞を受賞した(株)中野牧場 代表取締役 中野大樹氏(鹿追町)より講演をいただきました。一貫した経営理念のもと社員13名(パート含む)とともに乳牛750頭を飼養する中野氏は、①何のために仕事(勉強)をするのかを考えること、②成長する=できることが増えるためにまずは行動することが大切、と分かりやすい言葉で語りかけました。また、酪農情勢は厳しいが、危機的状況の今こそ身の回りにある資源を最大限に利用できないか、勉強・実践しながら可能性を探っていきたい。と現状に前向きに立ち向かう姿勢を示し、高校生また参加した生産者にとっても心に響く講演となりました。

続いて行ったおよそ60分間の意見交換会では、酪農家ユーチューバーでありご自身でも多数の学生と交流活動を行っている浅野達彦氏(第49回全国大会発表者・釧路市)にコーディネーターを務めていただきました。生産者を経営内容で①放牧・六次産業、②法人酪農経営、③ゆとりある家族経営、④女性経営・活躍、

⑤機械化・搾乳ロボットの5班に分け、希望進路、興味のある酪農、酪農に対する疑問・不安など事前アンケートへの生徒の回答も参考にしながら、自由に意見交換を行いました。生徒の興味は様々で、ゲノム解析の利点や搾乳ロボットの選定基準などの技術的な質問から、新規就農に関する相談、さらには生産者の趣味・特技に関する質問もありました。“ゆとりある酪農”って何だと思う?と言う生産者からの問いかけに頭をひねる生徒も。別の班では生徒一人ひとりの進路を聞き「水族館飼育員になりたい」など酪農以外に進む生徒にも「好きなことを仕事にするのはすごく良いね!」と温かい言葉がかけられました。コーディネーター並びに各班の生産者の声かけにより酪農以外の会話に発展している場面も見られ、その中で多く生産者からは「将来酪農をすると決めていても、今は道を絞らずいろいろな経験をした方が良い」と言う、人生の先輩としてのアドバイスが共通して聞かれました。進路選択と言う難しい時期である生徒には、少し気持ちが楽になる言葉だったのではないのでしょうか。担当されたとわの森三愛高等学校西川教諭からは「コロナ禍で現場に足を運び、本物に出会い、生の声を聴く機会が少なかったのが、このようなチャンスを与えて頂き感謝しています。生徒は、農家の皆さんから心のこもった温かいアドバイスを頂けて嬉しそうでした」と言うお言葉をいただきました。

限られた時間ではありましたが、高校3年生の皆さんにとって今回の意見交換会が、自信を持ってそれぞれの進路に進む一助になれば嬉しく思います。(T.H)



仙 台
支所発

「第43回 牛乳・乳製品利用料理コンクール 福島県大会」開催

10月20日(休)、福島県酪農業協同組合(紺野宏代表理事組合長)が事務局を務める福島県牛乳普及協会は、福島市の(財)福島県学校給食会において、第43回牛乳・乳製品利用料理コンクール福島県大会を開催しました。

福島県内の高校生以上を対象に料理を募集し、483点の応募作品の中から書類審査で選ばれた10名が実技審査で腕を振るいました。地元や旬の食材と牛乳・乳製品を使った、アイデア・個性豊かな作品が出来上がりました。

畑中料理研究所の畑中成純所長が審査委員長を務め、審査では牛乳・乳製品を基準量以上使用した上で、料理のしやすさやアイデアの斬新さ、おいしさを採点しました。

最優秀賞・県知事賞には福島県立あさか開成高等学校の釣巻永奈さんの「アボカドクリームチーズ豆腐」が選ばれました。12月には、料理コンクールの作品を載せた「レシピ集」を完成するとのことで、楽しみなところです。(Y.M)



最優秀賞・
県知事賞 釣巻 永奈さん (あさか開成高等学校)
「アボカドクリームチーズ豆腐」



優秀賞 永崎 紅亜さん (郡山女子大学附属高等学校)
「湯葉と半熟卵のトロトロオムライス ~3種の濃厚チーズソースがけ~」



東京
支所発

栃木県酪農業協同組合青年部連合会 「いちご一会とちぎ国体」で牛乳をPR!

去る10月1日(土)～10月11日(火)に秋の国民体育大会栃木大会(いちご一会とちぎ国体)が開催されました。その国体期間中に、主要会場である栃木県総合運動公園内のイベント・ブース会場のいちご一会広場で、栃木県酪農業協同組合(石川正美代表理事組合長)青年部連合会(蓮實伸也会長)が主体となって、牛乳(200ml)を13,000本無償提供しました。

生乳生産量本州1位を誇る栃木県産の牛乳を、全国から来県されたアスリート、スタッフの方々、地元ギャラリーの方々に振る舞いました。

全国から集まったアスリートにとって、強靱な体を作る上で、子供の時から飲み続けている牛乳を、この国体が終わって地元に戻っても、新鮮な牛乳をそれぞれの地域で、消費してもらいたいという思いを込めて、このいちご一会とちぎ国体から全国に発信しました。

牛乳を飲んだ方々から「おいしいです!」「給食で牛乳を飲んでます!」とお声をかけていただき、生産者と一般消費者が直接交流できる大きな機会となり、牛乳を通して多くの方々が元気になる普及活動の醍醐味を味わいました。お子様やご老人にも手に取って頂き、改めて牛乳は老若男女問わず愛されるものと再認識しました。

今回は牛乳配布と同時に、この国体開催に向けて牛乳パックをリサイクルして作った記念品のコースターを配布しました。SDGsへの取り組みとして環境へ配慮した100%牛乳パック使用のコースターは、和紙のような温かみがあり防水性もあって機能性抜群で、国体競技に躍動する48種の栃木県のマスコットキャラクター、とちまるくんのピクトグラムがデザインされており、コースター人気も牛乳の消費拡大活動に花を添えてくれました。(K.T)



▲ 栃木県のマスコットキャラクター
とちまるくんのピクトグラム

名古屋
支所発「愛知県畜産フェスタ」開催
酪農理解醸成活動実施

令和4年10月22日(木)に、愛知県畜産総合センター(岡崎市)において、「愛知県畜産フェスタ」が開催され、その中で愛知県酪農農業協同組合による酪農理解醸成活動が実施されました。

牛乳やバター、牛乳をふんだんに使った食パンなどのセットを販売し、100セット以上がお昼過ぎには完売するほどの大盛況でした。

酪農理解醸成のためのチラシと保冷バッグを配布

し、たくさんの来場者からは「おいしい牛乳をありがとう」と理解を示してもらえました。

牛乳普及協会のブースでは牛乳パックを使った工作教室も開催され、多くの子供たちでにぎわっていました。

牛乳・乳製品に対する一般消費者への良いアピールが出来たイベントで、これからも引き続き理解醸成活動に努めていきたいと思えます。(S.M)



▲ 子供たちに会い人気の牛さん



▲ 牛乳を求める多くの人たち



▲ 牛乳パック工作教室

名古屋
支所発

静岡県、愛知県ホルスタイン共進会開催

静岡県(11月10日(木))、愛知県(11月13日(日))でそれぞれホルスタイン共進会が開催されました。静岡は3年ぶり、愛知は4年ぶりの開催で、出品者の皆さんは、久しぶりの開催を大変喜ばれており、自慢の愛牛と力強く共進会会場を歩いておられました。

静岡は第96回、愛知は第42回と長い歴史があり、新型コロナ禍で中止を余儀なくされた我慢の期間をようやく抜け出せ、今後は酪友との交流も徐々に高めながら、厳しい情勢を共に乗り越えていこうという気持ちが強くなる共進会でした。(S.M)



▲ 静岡県畜産共進会



▲ 愛知県ホルスタイン共進会

名古屋
支所発

「はんだふれあい産業まつり」開催 酪農理解醸成活動実施

令和4年11月12日(土)、13日(日)に、半田運動公園（半田市）において、「はんだふれあい産業まつり」が開催され、その中で愛知県酪農農業協同組合による酪農理解醸成活動が実施されました。

牛乳の試飲には百数十名の行列ができ、小さいお子さんを含む消費者の皆さんは「おいしい」ととても

喜んで牛乳を飲んでいました。

その際、酪農理解醸成のチラシを渡しながらか、厳しい酪農情勢や牛乳・乳製品の消費のアピールも行いました。これからも引き続き理解醸成活動に努めていきたいと思ひます。
(S.M)



▲ 模擬搾乳体験



▲ 牛乳試飲



▲ 牛乳試飲

大阪
支所発

広島発 牛乳消費拡大運動の歌「牛乳そんぐ」 令和4年度購買・畜産・指導担当者会議でお披露目

広島県酪農農業協同組合は、牛乳・乳製品の消費拡大に向けたオリジナル曲「牛乳そんぐ」を作製しました。この曲は、同県熊野町出身の姉妹アーティスト「Mebius」によって制作され、6月1日の「牛乳の日」に初披露されました。

「牛乳そんぐ」は、去る11月10日(土)・11日(日)に、大阪支所の「令和4年度購買・畜産・指導担当者会

議」が同県尾道市「尾道国際ホテル」で地元広島県酪農農業協同組合をはじめ管内9会員14名の担当者等、及び協力会社から13名の参加のもと開催された懇親会会場でも「Mebius」ご本人が登場し披露され、素敵な歌声とともに(地元の子供たちからなる)「広酪ミルミルズ」によるとても可愛いダンスで会場が一体となり、大いに盛り上がりました。
(A.O)



「牛乳そんぐ」は
広島県酪農農業協同組合の
ホームページから聞けます。

<http://hiroraku.or.jp>



https://youtu.be/JzEB2_nKdyU



福岡
支所発「ハッピーミルクフェスタin熊本」
九州生乳販売農業協同組合連合会

11月6日(日)、イオンモール熊本（熊本県上益城郡嘉島町）で九州生乳販売農業協同組合連合会（中村隆馬代表理事会長）主催の九州 Love Milk Club presents『ハッピーミルクフェスタ in 熊本』が開催され、大勢の来場者が訪れ楽しんでいました。熊本での開催は実に7年ぶりとなります。

フェスタには、九州酪農青年女性会議委員も各県のハッピーを着用して参加し、日頃から牛乳乳製品を利用している消費者へ感謝を伝えるとともに、これからも酪農や牛乳乳製品を身近に感じてもらうため様々な企画で消費者と触れ合いました。

会場ステージでは、牛乳トークショーや牛乳クイズ大会が行われ、トークショーでは中村会長をはじめ九州酪青女から中村委員長（熊本県）や大渡副委員長（鹿児島県）、長友副委員長（宮崎県）が登壇し、日頃

の牛乳愛飲や酪農談議に花を咲かせるとともに、飼料価格高騰などの現状を説明し、11月からの牛乳乳製品の値上げに理解を求めました。牛乳クイズ大会ではお子さんたちが元気いっぱいクイズに答え、優勝者にはフルーチェとLL牛乳24本入りプレゼントされました。

搾乳・哺乳・飼料を体験してもらうスタンプラリーでは行列ができ、ミルメークや理解醸成グッズのプレゼントにお子さんたちは大喜び。塗り絵コーナーも併設され会場周辺ではリーフレットとLL牛乳を配布し用意していた3,000セットを早々に配り終えました。

酪農経営の危機！真っ只中ですが、突破するためには本日のようなイベントで九州の酪農家が団結し消費拡大・理解醸成活動を地道にやっていく事が大切だと実感しました。（Y.A）



（左から九販連中村会長、酪青女中村委員長）トークショー ▲

▼ トークショー（左から酪青女大渡副委員長、長友副委員長）



▲ 牛乳クイズ大会



▲ 搾乳コーナー



▲ 哺乳コーナー



▲ 飼料コーナー



▲ サンプルング



▲ スタンプラリー

福岡
支所発

「第48回ふるさとくるめ農業まつり」で牛乳乳製品消費拡大活動を実施

11月12日(土)～11月13日(日)、ふるさとくるめ農業まつり実行委員会（久留米市、ふくおか県酪農業組合、JA久留米等がメンバー）主催の「第48回ふるさとくるめ農業まつり」が、いのちを育む大地と人のふれ愛をテーマに3年ぶりに久留米百年公園で開催されました。

公園内の一角にミルク広場を設けて、ふくおか県酪協の職員が乳しぼりやバター作り体験、子牛の体重

当てなどのイベントを実施し酪農に関する理解醸成活動を行いました。初日は快晴で気温も一気に上昇し直売コーナーでは牛乳や乳製品、ソフトクリームを販売し、人だかりができる程で来場者とふれ愛、「牛乳もう売り切れなの～」、「毎日牛乳飲んでよ！」などと会話も弾みました。我々もお客さんも久しぶりの農業まつりを思い思いに楽しみました。（S.T）



▲ 模擬牛での搾乳体験



▲ 福岡県産牛乳試飲配布



▲ 牛乳乳製品直売

福岡
支所発

「第3回さが駅前うまいもん市場」で酪農理解醸成！

佐賀市のJR佐賀駅南口で整備されていた佐賀駅前交流広場の完成にあわせて11月19日(土)にオープニング式典が催され、20日(日)にかけてJAさが（大島信之代表理事組合長）の協力により「第3回さが駅前うまいもん市場」が開催されました。

人々が行き交う広場では、地元農産物の販売テントやキッチンカーが出展し、オープンカフェさながら

に休憩や食事を楽しむ姿が見られました。酪農理解醸成を目的とした乳しぼりや哺乳体験コーナーはお子さんで賑わい、福岡支所も牛乳乳製品の消費拡大のためバターやチーズの販売を行いました。お客さんから「チーズ美味しいからよく食べるのよ！」と声をかけてもらい楽しいひと時となりました。（T.S）



▲ 広場完成のテープカット



▲ 酪農体験に山口佐賀県知事も興味津々



▲ 搾乳体験を楽しむお子さんたち

栄えある 秋の叙勲・褒章



旭日双光章

岡田 穂積 氏

平成28年8月 光南台土地改良区 理事長（現職）
平成30年6月 おかやま酪農業協同組合 代表理事組合長
（一社）岡山県畜産協会 副会長、
（一社）Jミルク、（一社）中央酪農会議、
（一社）全国酪農協会、（一社）全国ヘルパー協会 理事
平成30年7月 中国生乳販売農業協同組合連合会 代表理事会長
平成30年7月 全国酪農業協同組合連合会 理事



旭日単光章

園田 猛 氏

農事組合法人霧島第一牧場 代表理事組合長

黄綬褒章

須藤 陽子 氏

株須藤牧場 取締役

政府は11月3日(木)、秋の叙勲・褒章受章者を発表しました。全酪連関係及び酪農関係からは、次の方々が受章の名誉に輝きました。心からお祝い申し上げます。すとともに、益々のご活躍をお祈りいたします。



I LOVE MILK ACTION 2022 WINTER

2022.11/16—2023.1/31

昨年度に引き続き、今年度も取り組みを行います。

「I♥MILK ACTION 2022 WINTER」とは、生乳の需給緩和が予想される11月から翌年1月までの期間に、全酪連グループ役職員一丸となり、牛乳・乳製品の消費拡大を応援する活動の総称です。

今回は内部の取り組みに加え、対外的な取り組みを行います。

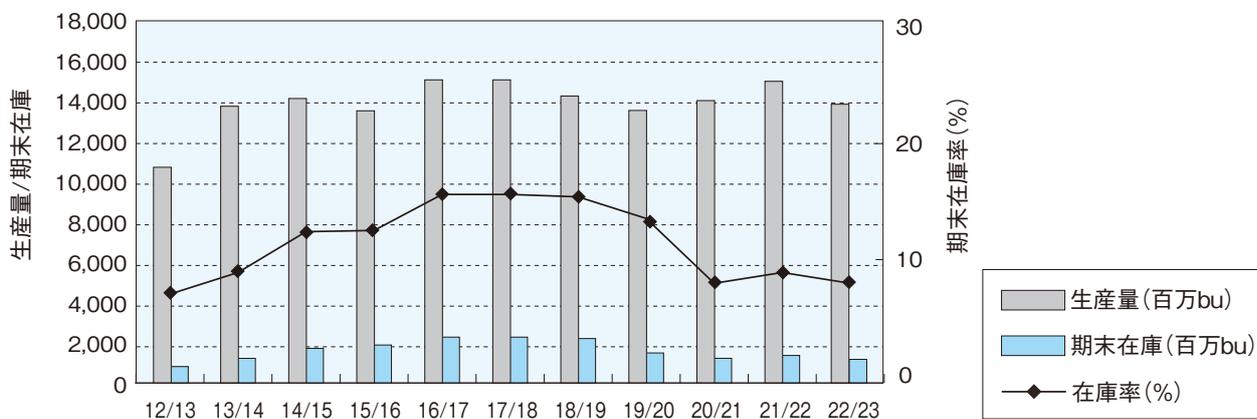
➔ <http://milk-action.org/>



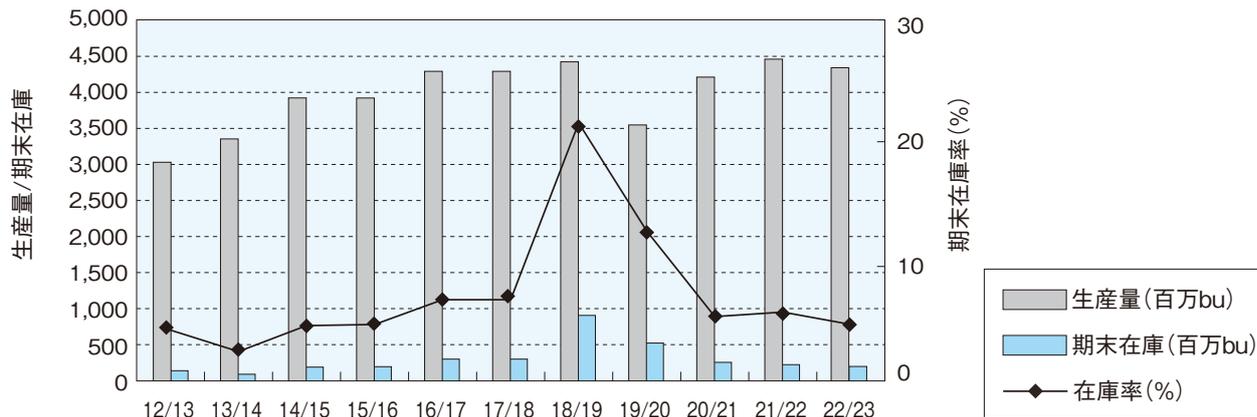


		21/22年産	22/23年産
11月9日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	93.3	88.6
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	176.7	172.3
	生 産 量 (ブッシェル)	150億7,400万	139億3,000万
	需 要 量 (ブッシェル)	149億5,600万	141億7,500万
	期末在庫 (ブッシェル)	13億7,700万	11億8,200万
	在 庫 率	9.21%	8.34%
	トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は横ばいに推移している。11月USDA需給報告を受けて生産量や期末在庫の上方修正、GULFのミシシッピ川の水位回復による物流障害が緩和されているものの、中国でのゼロコロナ政策による需要低迷が引き続き見込まれることからシカゴは引き続き上値重く推移する見込み。	
大豆粕相場動向	中国及びインド産は大豆価格高騰により輸出余力がなく、南米産は豊作ではあるものの現地価格が高騰していることから輸入大豆粕は価格競争力がない状況となっている。国産大豆粕は、季節要因により搾油量が一服。今後は潤沢な油脂在庫を受け、搾油量が減少する可能性があることから相場は引き続き底堅く推移している。		
槽糠類	【一般フスマ】 在庫が積みあがらない中、飼料需要が増加し、需給は引き続き逼迫している。1-3期も前年対比100%割れの操業予定の為、タイトな状況が続く見込み。		
	【グルテンフィード】 ふすまの代替での使用が増えており、在庫は適正化している。中国産の価格が高騰しており国産価格と値差があることから、安い国産玉を確保する動きが出ており、この先の国産玉はかなりタイトになることが予想される。		
海上運賃	10月のフレート市況は、明確な方向感なく上値が重い展開となった。中国のゼロコロナ政策による都市封鎖で経済活動が停滞していることや建設関連の不動産投資の不振による鉄鉱石需要が落ち込んでいることが要因。中国向けの大豆輸出は第3四半期以降、飼料需要が改善した為回復傾向にあるが上記の理由から市況は下支えされており、ゼロコロナ政策が完全に緩和されない限り鉄鉱石の需要は引き続き低調になると思われる。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



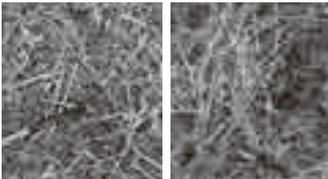
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和4年11月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸のロサンゼルス港の発表によると、11月8日時点のロサンゼルス及びロングビーチ港沖合におけるコンテナ船の滞船数は7隻となっています。1年前の2021年11月16日付の発表が両港沖合で89隻の滞船であったことを考えると、今年は夏場以降、海運情勢は改善しており、その他の西海岸各港を含め、落ち着いた運航が続いています。背景には、長引く北米西海岸における港湾労使交渉や年末年始の港湾混雑等のリスクを避けるため、小売業者を中心に西海岸から東海岸のサバンナ・ニューヨーク港等に輸入貨物を移行していることや、米国におけるインフレの影響で、消費が落ち込み、西海岸の輸入量が減少していることも影響していると考えられています。一方で労使交渉は使役者団体のPMAと港湾労働組合ILWUによる協議が現在も続いています。オークランド港では、11月2日にILWUの組合員が、単独でターミナル前で争議行動を実施しました。輸出コンテナの搬入が滞り、ターミナルにおける作業性の低下を招きましたが、1日間の争議行為であったため、大きな影響は出ていません。この先、11月に米国中間選挙を控えています。物流の混乱から米国内の更なるインフレを避けるために米国政府も関心を示しており、引き続き交渉の経過には注視が必要です。
ビートパルプ	【米国産】産地ではビートの収穫が本格化し製糖作業と同時に並行で進められています。工場のメンテナンス作業の遅れや、労働者不足、工場へのビート原料輸送の遅延等により、当初の予定よりも工場での生産に遅れが生じています。またビートの収量が予想よりも少なく、新穀である22-23年産ビートパルプの生産量減少も懸念されています。
アルファルファ	<p>【ワシントン州】主産地であるコロンビアベースンでは3番刈及び、部の圃場で生産されている4番刈の収穫作業が終盤を迎えています。22年産は春先の冷涼な気候や1番刈収穫前に断続的な降雨があったため、収穫作業の開始が3～4週間遅れました。2番刈以降でも収穫スケジュールの遅れを挽回することはできず、多くの圃場で例年生産される4番刈の収穫ができない状況となりました。3番刈～4番刈の品質については、収穫時の山火事による煙の影響で通常よりも乾燥に時間を要したため、色目が悪く、過乾燥気味な中級～低級品の発生が中心となっています。産地相場については、上級品は年間を通し発生量が限られたため、引き続き高値で推移しています。</p>  <p>▲ワシントン産3番刈アルファルファ 左:上級品 右:低級品 10月中旬撮影</p> <p>【オレゴン州】オレゴン州南部クラマスフォールズでは4番刈の収穫作業が終盤を迎えています。22年産は1番刈の収穫の遅れに加え、3番刈においても、9月の収穫前に断続的な降雨があったことから収穫作業が遅れ、一部の圃場を除き多くの圃場で4番刈の収穫ができず、3番刈で22年産の生産を終えています。産地相場については引き続き、米国内需における上級品の需要は衰えておらず、上級品の相場は2番刈と比較し、やや上昇傾向にあります。</p>
チモシー	<p>【米国産】ワシントン州コロンビアベースンとエレンズバーグでは2番刈の収穫を終えています。作況について、1番刈は収穫期に天候に恵まれたこともあり、上級品中心の発生となりました。2番刈は夏場の収穫になったことで、収量は低く、生育が早かったため、穂が着く前に早々と刈り取った影響で中級品中心の発生となりました。産地では馬糧向けの上級品は輸出向け及び米国内需向けに順調に出荷されている一方、酪農向けについては、これまでにない価格で高止まりしていることから、日本・韓国向けの需要が減少しており、各輸出業者、出荷は低調なものになっています。</p> <p>【カナダ産】主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、22年産の収穫作業が終了しました。22年産の作付面積は概ね昨年並みとなっています。生育期に降雪や降雨があり、土壌水分も十分な状態で収穫がされたことから、1番刈の単収は3トン/エーカーとなり、生産量は例年並みとなりました。作況としては収穫期に天候に恵まれたため、上級品から中級品中心の発生となったものの、冷涼且つ湿度が高かったことから、例年よりも乾燥に時間を要し、色抜け品の発生も散見されました。同州南部レスブリッジ地区でも、22年産の収穫作業が概ね終了しています。9月中旬から始まった2番刈の収穫は、収穫期序盤に降雨があり、10月においても降雨や、霜害の影響を受け低級品～中級品中心の発生となっています。</p>
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫作業が終了しています。冬に近づくにつれて冷涼な気候になり生育が望めないことから、3番刈まで進む圃場は非常に限定的です。産地では9月に引き続き、10月中旬にも降雨があったため、茎が太い低級品において雨当たり品が多く発生しています。米国内肥育農家は品質を問わず価格が安いものを優先的に買付けすることから、雨当たり品は米国内需向けへと捌かれています。輸出業者によると、産地在庫は中級品～上級品で多少余剰在庫があるものの、低級品は成約済みとなっています。
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、5番刈の収穫作業が終盤を迎えています。産地では冷涼な気候になっており、今後生育が見込めないことから、大半の圃場において、5番刈で22年産の生産を終えています。</p>
パミュダ	主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは、圃場により4番刈～5番刈が収穫されています。パミュダヘイの上級品は相変わらず国内の馬糧向けに高値で取引されています。また22年産は住宅用のパミュダ種子の需要が強かったこともあり、種子用の生産が増加している反面、パミュダヘイの生産量は例年よりも少なくなっています。
オーツヘイ	<p>【豪州産】10月の豪州は多雨に見舞われ、降水量は観測史上2番目に多いものとなりました。特に東豪州は記録的な豪雨となり、22年産の収穫に大きく影響が出ています。11月も東豪州から南豪州にかけて、平年以上の降水量となる可能性が高いと予報されているため、今後も天候や収穫状況の動向に一層の注視が必要です。</p> <p>【東豪州産】東豪州に位置する、ニューサウスウェールズ州とビクトリア州における、10月の降水量は、同月比で観測史上最も多いものとなりました。河川の氾濫や洪水が発生し、多くの都市で浸水や停電が発生し、道路が閉鎖されるなど、日常生活においても多大な影響が出ています。オーツヘイもこの豪雨の影響で圃場がぬかるみ、収穫できないため、9月末より始まった22年産の収穫は現時点で5%程度の進捗となっており、この先の天候次第では、オーツヘイでなく穀物の燕麦として収穫が進められる予定です。また収穫されたオーツヘイもほとんどが雨あたり品となっており、上級品の発生は見られていない状況です。</p> <p>【南豪州産】南豪州でも収穫期に大規模な降雨があり、刈遅れや雨あたり品の発生が多くなっています。現在までに40～50%程度の収穫が完了しており、今後も収穫作業は続きますが、不安定な天候が続いているため、この先の天候次第では、刈遅れや雨あたり品の発生が多くなり、中級～低級品中心の発生になる見込みです。</p> <p>【西豪州産】西豪州では、22年産の収穫作業は順調に進み、10月中旬より新穀の出荷が開始されています。生育期及び収穫期の天候に恵まれたため、収量も平年以上で成分値も中級品～上級品程度のもので多く収穫されています。産地では22年産の収穫作業11月中旬にも終わる予定です。</p>

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	15~25	→	札幌管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で100.2%、累計で102.6%、苫小牧管内月計で95.9%、累計で97.0%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月下旬~3月中旬分娩が中心となっております。11月管内市場は上場頭数の増加や道内需要低下により、弱含みに推移いたしました。12月は例年市場への上場頭数が多く、全体的に軟調な動きとなることから、庭先購買においても弱含みで推移すると予想されます。育成牛に関しましては、冬から春産まれの牛となりますが、初妊牛相場の情勢から、横這いで推移すると見込まれます。上場頭数は少ないですが初妊牛・育成牛ともに良い牛が多い地域ですので、相場が落ち着いているこの時期に導入をお勧めいたします。
	初妊牛	40~50	↓	
	経産牛	20~30	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	20~28	⇐	根釧管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で93.9%、累計で98.2%、中標津管内月計で94.5%、累計で99.1%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月下旬から3月中旬分娩が中心となっております。初妊牛においては、11月管内乳牛市場は資源頭数が十分にあることから、やや軟調に推移していますが、低価格牛は自家保留する傾向も見られます。12月の管内乳牛資源頭数においても前年並みにありますが、放牧地からの退牧に伴い、遠い腹も市場に申し込まれていることもあり、分娩の近い牛を探しづらくなるものと思われます。中クラスからの庭先購買価格としては、横這いで推移すると予想されます。経産牛も同様に横這いで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	28~38	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	20~30	→	帯広管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で96.5%、累計で100.7%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月下旬~3月中旬分娩が中心となっております。11月管内市場は、上場頭数も例年より多く軟調に推移いたしました。12月は例年上場頭数が多く、軟調な動きを見せることから、庭先購買も弱含みで推移すると予想されます。資源状況について、F1腹は豊富にありますが、雌雄選別腹に関しましては、出回りが減少しております。最近の授精状況においてもF1腹が多くなっていることから、今後は、ホル雌資源が少なくなる可能性があります。そのため、相場も落ち着いているこの時期に、将来の後継牛確保を目的とした雌雄選別腹の導入をお勧めいたします。
	初妊牛	45~55	⇐	
	経産牛	23~33	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	15~25	⇐	道北管内の11月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.1%、累計で99.9%、北見管内月計で94.9%、累計で99.2%の実績となっております。12月の初妊牛動向といたしまして、2月下旬から3月中旬分娩が中心となっております。初妊牛においては、11月管内乳牛市場は資源頭数が十分にあることからやや軟調に推移しており、12月の管内乳牛資源頭数においても前年並みにあり、庭先購買価格としては弱含みで推移すると予想されます。経産牛におきましても、初妊牛と同様の動きと予想されます。育成牛につきましては、管内自家保有率が高く資源頭数が十分にあり、現在の酪農情勢も含めると弱含みに推移すると予想されます。
	初妊牛	40~50	⇐	
	経産牛	22~33	⇐	
道内総括	育成牛(10-12月令)	20~30	→	道内の11月中旬までの生乳生産量前年比は95.7%、累計で99.7%の実績となっております。各地域、寒さも増し冬本番といった季節となってきました。12月の初妊牛動向といたしましては、2月下旬以降の分娩中心となります。導入シーズンとなり注文は増加傾向ですが、年末となり初妊牛・経産牛ともに資源は豊富に出てくるものと予想され、相場は前月と比較しやや弱含みと見込まれます。今後、F1腹が増加し、雌雄選別腹の頭数が少なくなることが予想され、将来的には、乳牛頭数が減少することが危惧されます。弊会と致しましては、資源状況を把握しながら、庭先購買を中心にご希望に合った搾乳用素牛を供給して参りたいと思いますので、導入予定がございましたら弊会担当者までご相談・ご注文を宜しく願います。
	初妊牛	43~53	⇐	
	経産牛	23~33	⇐	

今月の表紙



今月の表紙は「第12回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「牛乳最高!」(熊本県 隈部 雅子氏 撮影)です。

編集後記

- 全酪連会報も今年最終号となりました。ご愛読いただきました皆様、取材・寄稿等、発行にあたり多大なるご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。生乳の需給緩和の傾向はまだまだ続く見込みです。処理不可能乳が発生しないよう牛乳・乳製品の消費拡大に努めたいと思います。
- 2023年は卯年です。兎には跳ねる特徴があるため、景気が上向きに跳ねる。回復する。と言われていています。明るく、飛躍の年となることを期待しましょう。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和4年12月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 12月号 No.687

- 編集・発行人 工藤文彦
- 発行 全国酪農協同組合連合会
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
 TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

1月

新年の御挨拶／
 全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長 隈部洋 …… 2
 農林水産省畜産局長 森健 …… 4
 若手後継者の本音／鈴木敏文さん …… 6
 監査室だより／内部管理体制(内部統制)の強化について …… 8
 酪農業に対する理解醸成活動報告2 …… 10
 日本酪農見て歩紀／愛知牧場 愛知県日進市 …… 11
 酪農トピックス／「第42回 牛乳・乳製品利用料理コンクール 福島県大会」開催(仙台)ほか …… 14
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和3年12月) …… 18
 酪政連活動報告 …… 20
 今月の表紙／元気に産まれたよ! …… 21
 今月の子どもギャラリー／那須塩原市青木小学校 4年(関甲信) 鍛守倭吉さん …… 22

2月

若手後継者の本音／奥澤佑介さん …… 2
 品質保証室だより／令和3年度食品事故情報 …… 4
 酪農業に対する理解醸成活動報告3 …… 6
 日本酪農見て歩紀／株式会社坂手ファーム 岡山県加茂町 …… 9
 酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和3年度経営者研修会・意見交換会」(酪農部)ほか …… 12
 令和4年 各地域酪農青年女性会議 酪農発表大会開催のご案内 …… 15
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年1月) …… 16
 人事異動 …… 18
 今月の表紙／よしよし♡ …… 19
 今月の子どもギャラリー／室場小学校1年(中部)の都築大和さん …… 20

3月

酪農とのかけはし／合同会社小井田家畜診療所 …… 2
 令和2年度 会員概況調査より …… 4
 企画管理部だより／令和3年度 決算に向けて …… 9
 日本酪農見て歩紀／全酪連 若齢預託熊本牧場 熊本県菊池市 …… 12
 酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和3年度商品開発研修会」の開催(酪農部)ほか …… 16
 令和4年 各地域酪農青年女性会議酪農発表大会開催変更のご案内 …… 19
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年2月) …… 20
 広告／全酪アカデミー …… 22
 今月の表紙／通りますよ～! …… 23
 今月の子どもギャラリー／那須塩原市青木小学校 3年(関甲信) 高久颯星さん …… 24

4月

若手後継者の本音／山下和成さん …… 2
 酪農部だより／新シリーズ「ZenrakuOriginal(ゼンラクオリジナル)」
 2022年4月1日(金)より発売 …… 4
 令和3年度 監事・役員研修会開催 …… 6
 日本酪農見て歩紀／株式会社小沢牧場 長野県上伊那郡南箕輪村 …… 10
 酪政連活動報告 …… 13
 酪農業に対する理解醸成活動報告4 …… 14
 酪農トピックス／桜開花春疾はやて風 モ～1杯!牛乳飲んでくた祭さい(福岡)ほか …… 16
 全酪連2022年のニューフェイスが集結! …… 20
 令和4年 各地域酪農青年女性会議酪農発表大会開催変更のご案内 …… 21
 作品募集のお知らせ …… 20
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年3月) …… 22
 今月の表紙／空と牛と大地と …… 24
 今月の子どもギャラリー／那須塩原市青木小学校 2年(関甲信) 大野美桜さん …… 25
 第50回全国酪農青年女性酪農発表大会開催のご案内 …… 26

5月

酪農とのかけはし／大内 智之さん …… 2
 購買生産指導部だより／(株)日本ミルクプレイサー 竣工式 …… 4
 日本酪農見て歩紀／山田牧場 福島県石川郡石川町 …… 6
 一般社団法人全酪アカデミーに3人の研修生が入職 …… 9
 酪農トピックス／全酪連北関東セミナー・ウェビナー形式で
 開催(哺乳ロボット事例紹介)!(東京) …… 10
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年4月) …… 11
 第50回全国酪農青年女性酪農発表大会開催のご案内 …… 13
 作品募集のお知らせ …… 14
 今月の表紙／おいしいかい!! …… 13
 今月の子どもギャラリー／東広瀬こども園 6歳(中部) 杉浦慈栄さん …… 16

6月

若手後継者の本音／別府秀都さん …… 2
 第50回 全国酪農青年女性酪農発表大会 発表者決定!! …… 5
 日本酪農見て歩紀／浅野牧場 北海道釧路市 …… 8
 酪農トピックス／ゴールデンウィークの牛乳消費拡大にむけて
 東北酪農青年女性会議(仙台)ほか …… 11
 栄えある春の叙勲・褒章 …… 16
 酪政連活動報告 …… 17
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年5月) …… 18
 今月の表紙／レッド …… 20
 今月の子どもギャラリー／相馬市立大野幼稚園(作品制作当時)5歳(東北)の小川さくらさん …… 21
 酪農部だより／全酪連ギフト商品について …… 22
 第50回全国酪農青年女性酪農発表大会開催のご案内 …… 26

7月

酪農とのかけはし／西川謙さん
 (酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 機農コース 農場長 教諭) …… 2
 特別記事／第50回 酪農発表大会に寄せて …… 5
 第73年度(令和4年度)事業計画案 …… 8
 第48回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介 …… 12
 父の日に牛乳を贈ろう! 前編 …… 16
 酪農トピックス／中部酪農青年会議主催
 「農林水産省 東海農政局長への牛乳贈呈式」の開催(名古屋)ほか …… 19
 日本酪農見て歩紀／森村牧場 福井県若狭町 …… 24
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年6月) …… 28
 酪政連活動報告 …… 30
 人事異動 …… 31
 今月の表紙／ミルク混ぜは、私の仕事!! …… 31
 今月の子どもギャラリー／練馬区立大泉東小学校(関甲信) 6年 喜多小雪さん …… 32

8月

第73年度(令和4年度) 通常総会開催される(概要) …… 2
 若手後継者の本音／熊谷耕一さん …… 4
 総務部だより／デジタル庁・総務省からのお知らせ …… 6
 第50回 全国酪農青年女性酪農発表大会① …… 8
 第12回 酪農いきいきフォトコンテスト 入賞作品紹介 …… 13
 父の日に牛乳を贈ろう! 後編 …… 14
 日本酪農見て歩紀／水本マーク牧場 兵庫県南あわじ市阿万 …… 16
 酪農トピックス／朝から牛乳をグッと飲んで一日元気に!!
 「グッとモーニングミルクアクション」開催(酪農部)ほか …… 20
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年7月) …… 22
 人事異動 …… 24
 今月の表紙／おのこし調査隊 …… 25
 今月の子どもギャラリー／寄居町立折原小学校3年(関甲信)の 大塚虹七さん …… 26

9月

酪農とのかけはし／富澤 雄二さん(株式会社ヘルシーミルク) …… 2
 第73年度(令和4年度) 通常総会開催される(詳細報告) …… 4
 第50回 全国酪農青年女性酪農発表大会② …… 7
 日本酪農見て歩紀／農事組合法人高塚酪農組合 熊本県人吉市 …… 11
 購買生産指導部だより／DMSシステム 令和3年集計結果 …… 16
 酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和4年度製造実務者向け
 オンライン研修会」の開催(酪農部)ほか …… 18
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年8月) …… 20
 酪政連活動報告 …… 22
 今月の表紙／おいしい牛乳をありがとう …… 23
 今月の子どもギャラリー／下関市立豊北こども園4歳(西日本)の 林映里さん …… 24

10月

若手後継者の本音／福原美江さん …… 2
 酪農部だより／「日本初!乳製品自動販売機」の設置から1年半が経過しました …… 4
 「酪農危機を突破するための全国酪農民緊急特別集会」開催される …… 6
 日本酪農見て歩紀／(南)トリムファーム 栃木県大田原市 …… 8
 酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和4年度営業向け研修会」の開催(酪農部)ほか …… 11
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年9月) …… 14
 人事異動 …… 16
 酪政連活動報告 …… 16
 今月の表紙／はじめまして …… 17
 今月の子どもギャラリー／寄居町立用土小学校 4年(関甲信) 羽鳥隆成さん …… 18

11月

酪農とのかけはし／鳥居雅樹さん・中村智貴さん …… 2
 酪農業に対する理解醸成活動を開催 …… 4
 日本酪農見て歩紀／日向牧場 宮城県本吉郡南三陸町 …… 7
 飼料価格高騰緊急対策事業措置される …… 10
 酪農トピックス／酪農家になりたい!を応援する一般社団法人 全酪アカデミー
 「令和4年度事業報告会及び研修会」(総務部)ほか …… 11
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年10月) …… 19
 今月の表紙／いい天気 お外気持ちがいいね …… 21
 酪農部だより／全酪連ギフト商品について …… 22
 今月の子どもギャラリー／豊富小学校4年(中部)の 加藤護莉さん …… 26

12月

若手後継者の本音／外之内 加奈さん …… 2
 酪農業に対する理解醸成活動報告① …… 4
 令和4年度 全酪連会員職員研修会(前編) …… 6
 日本酪農見て歩紀／株式会社十勝清水すくすくライフ 北海道上川郡清水町 …… 10
 酪農トピックス／東京のど真ん中にミニ牧場が出現?
 酪農体験イベント「わくわくモーニング牧場～豊洲に牛がやってくる～」開催(酪農部)ほか …… 14
 栄えある秋の叙勲・褒章 …… 25
 I♥MILK ACTION 2022 WINTER …… 25
 原料情勢・輸入粗飼料の情勢(令和4年11月) …… 26
 今月の表紙／牛乳最高! …… 28
 総目次 …… 29
 今月の子どもギャラリー／会津若松市立謹教小学校 5年(東北)の有賀葵さん …… 30

今月の

らくらくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介



草を食べる牛

会津若松市立謹教小学校 5年（東北） 有賀 葵

今月の入賞作品は…

会津若松市立謹教小学校 5年（東北）の有賀葵さんの作品です。

草を噛む牛さんの様子を注意深く観察していますね。そんな葵さんの視線が強く伝わってくる素直な作品です。牛さんの前脚の表現は、対象を何度も見返して絵筆を運んだ形跡が見てとれて、現場の臨場感を強く感じます。縦の構図で牛さんの前半身を切り取った画面構成も見事です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第48回らくのうこどもギャラリー」で全国205点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議